

令和3年度 指定管理業務評価票

施設名: 府立花の文化園	指定管理者: 住友林業緑化・E-DESIGN共同企業体	指定期間: 令和3年4月1日～令和5年3月31日	所管課: 環境農林水産部農政室推進課
--------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------

評価項目	評価基準	実施予定年度		指定管理者の自己評価	評価 (S~C)	大阪府の評価	評価 (S~C)	評価委員会の指摘・提言
		R3	R4					
I 提案の履行状況に関する項目								
1 施設の設置目的を果たすためのサービス向上を図る具体的な手法	(1) 魅力的なプログラムの開発と施設運営	○	○			<p>・園の設置目的である花きの収集や栽培、花きに関する講習会の開催等について、提案に沿った取組みがなされており、評価できる。</p> <p>・特に、園のシンボルである大温室で開催した「マドンナリリー展」では、マドンナリリーの歴史等の解説を行うなど、花と文化を学べるような創意工夫がみられる。</p> <p>・「クリスマススワッグ作り」では、複数回にわたり実施頂いた。花を身近に感じられる取組みを行っていただいております、評価できる。</p>	A	—
	ア 花きを収集し、栽培し、及び展示	○	○					
	(ア) 収集							
	・花きに関するネットワークを生かした収集	○		植物園協会を通じて絶滅危惧種・希少種の種苗交換を他の植物園と実施。また、大阪愛蘭会様との定期的な連絡をとり希少なランの株を寄贈頂き園にて管理展示している。				
	・「食」の観点で新たな植物を収集	○		養蜂に適した植物としてエキキュウム、ダリアを積極的に栽培。また観賞用としての魅力もあり今後も継続して栽培予定。				
	・ストーリー性のある植物種の充実	○		幻のユリと言われる「マドンナリリー」の大量栽培にむけた取組を実施。6月にはユリ祭りの目玉として展示会を開催。				
	(イ) 栽培							
	・企業力を生かした幅広い栽培	○		道の駅隣の休耕地や和泉市の休耕地を借りて蜜源植物の栽培実証実験を実施。試験的ではあるがかなりの採蜜量があった。来季は更に休耕地での栽培量を増やす計画である。				
	・新たな栽培技術の研究	○		「マドンナリリー」の大量栽培へ取組中。				
	(ウ) 展示							
	・花にあふれた展示	○		季節に合わせて装飾花壇の植替えを4回/年実施し、あわせてフラワードレスも定期的に模様替えを実施。また、エントランスゲート入口にフォトスポットとなる「花ぐるま」を常設し四季の花が楽しめる展示をした。				
	・植物そのものに興味がわく展示	○		夏休み中に「不思議植物展」を開催し、熱帯植物・食虫植物を解説付きで展示して子どもに興味を持ってもらう展示を行った。				
	・花のある暮らしの豊かさが伝わる展示	○		イベントホール等を使用して年間を通じて植物の展示会を開催した。詳細は別添参照				
	・わかりやすい展示	○		人気展示エリアであるバラ園においてバラの詳細情報を樹名札に添付しバラについて花を見るだけではなく花の情報も同時に提供した。また、特別に香りが良いバラには「香り」と表記してよりバラを楽しんでもらえる展示とした。				
	(エ) 大温室							
	・華やかな憩いの場所となる演出	○		温室入口にランの特別展示場所を設置し1年を通してランの花による演出をおこなった。				
	・文化も学ぶことができる展示	○		コレクションガーデンで開催した「マドンナリリー展」において、花だけでなく「マドンナリリー」の歴史や歴史的絵画での描かれ方等の解説を行い花と文化について学べる展示とした。				
	(オ) 装飾花壇							
	・入園したくなる演出	○		「フラワードレス」の横に「フラワーキャッスル」を設けて新たなフォトスポットとするとともに、装飾花壇にストーリー性を持たせた展示とした。				
	(カ) 梅園							
	・鑑賞しやすく、健全な育成管理	○		ウメの開花後に切り戻し剪定を行い樹形を整えとともに生育環境を整備し花付きを良くする管理を実施。ウメの開花にあわせて「ウメこたつ」では新たに2か所のこたつを増設し、より多くの方にこたつでの鑑賞を楽しんでもらえるようにした。				
	(キ) バラ園							
	・立体的な装飾による、華やかな演出	○		バラ園内にアイアン製のオベリスクを設置して立体的なバラの展示になるように改修した。				
	(ク) クレマチスガーデン							
	・ガーデン資材の刷新による鑑賞度を高める演出	○		ガーデン内の芝生スペースにレンガ積の花壇を設置、その中にアイアン製の大型オベリスクを設置してクレマチスを立体的な展示とした。				
	(ケ) もみじ谷							
	・適正な管理と新たな特徴づけ	○		もみじ谷内の針葉樹(ユーカリ等)の一部を伐採することでより、もみじが際立つ環境に整備した。				
	(コ) その他重要ガーデン							
	・現在の水準を確保するための適切な管理	○		植物管理担当職員6名がそれぞれ担当エリアを持ち、各担当エリアごとに年間計画のもと適切に管理を実施。また、ボランティア団体(フルル、トモロス)と協業し年間を通しての園内整備を実施することで整備された状態を維持している。				
	(サ) バックヤードの活用							
・展示用植物の栽培や希少な野生植物の保護、増殖	○		バックヤードの温室にて「ラン」の栽培を行い1年を通して綺麗な「ラン」を温室に展示。また「マドンナリリー」栽培も行い6月のユリ祭りにあわせて年間管理を実施。今年度も環境省の「生物多様性保全推進支援事業」として絶滅危惧種の調査を実施。府政学研究会にて園内見学とあわせてバックヤードの見学会を実施。また、他の植物園等の関係者の来園時には情報・意見交換としてバックヤード内に案内した。					
・バックヤード見学会のイベント実施	○							
イ 花きに関する講習会、展示会及び品評会等	○	○						
(ア) 文化を学ぶ								
・和菓子の展示会	○		コロナ禍にて実績無し					
・日本の花文化を知るミニ盆栽教室	○		左記に変わり、「春を告げる盆梅展」を開催。					
・子ども向け押し花教室	○		植物レッスンとして「押し葉標本作り」を実施。					
・園の植物を活用した草木染講習会	○		植物レッスンとして「藍染体験」を実施予定。(2/20)					
(イ) 暮らしに花をもたらす								
・花模様の展示会	○		各種花の展示会をイベントホール、センター棟、大温室にて開催した。詳細は別添資料参照					
・寄せ植え教室	○		植物レッスンとして「春の寄せ植え」を実施予定。(3/20)その他「チランジアと多肉植物のリース作り」を開催。					
・ハーブガーデンのポプリづくり	○		植物レッスンとして、園内のダリアをはじめとする花や葉を活用した「ダリアのフラワーアレンジメント」を開催。					
・リース品評会	○		植物レッスンとして「クリスマススワッグ作り」を実施。園外の講習会として「りんくうプレミアムアウトレット」、「イズミヤ河内長野店」にて「クリスマススワッグ作り」を実施。実施時に各会場にて職員が作成した見本を展示することで花の魅力を伝えた。					
(ウ) 花だけではなく、広く自然を対象とした学び								
・キッチンガーデンを活用した食育	○		園内の花きより採集したハチミツの蜜ロウを使ったローソクづくりの出張体験会を実施、参加したお子様にハチミツが取れるまでの説明と蜜ロウの関連もあわせて学習してもらった。					
・園で見られる生き物教室	○		「はなぶんサマースプラッシュ」にて大阪府立大学等から外部講師を招いて「昆虫教室」、「昆虫標本作り教室」、「植物園の生き物観察会」を開催					
・花の写真教室	○		花の文化園写真コンテストを春夏・秋冬の部として開催。大阪府知事賞等を選出し展示した。					
・手作りアート品評会	○		「はなぶんサマースプラッシュ」、「奥河内秋の文化祭」にて、子どもまたは親子を対象としたものづくりワークショップを開催。					

評価項目	評価基準	実施予定年度		指定管理者の自己評価	評価 (S~C)	大阪府の評価	評価 (S~C)	評価委員会の指摘・提言
		R3	R4					
3 利用者の増加を図るための具体的手法、効果	(1) 利用者増加のための工夫	○	○		A	<p>・いずれも提案内容に沿った取組みが確実に行われている。</p> <p>・特に、園外施設において、花の文化園のPRにつながる出張ワークショップを開催したことは、園のPRとなり、園の認知度UPに資するなどの効果もあり評価できる。</p> <p>・今年実施できなかったweb植物図鑑への誘導等については、来年度早々の実施に期待したい。</p>	A	<p>・入園者の増加等のためイルミネーション(はなぶんサンクスイルミ)をはじめとした様々な取組みを実施してきたことは評価できる。</p>
	ア 施設の利用	○	○					
	(ア) 申込方法の簡略化							
	・利用申請方法の簡略化(窓口及びFAXでの受付の継続実施)	○		事務所窓口、電話、FAX、ホームページによる受付に代えてインターネットサイト「こちーず」による受付も開始。				
	・リピーター確保のための登録制度と申請の簡略化、顧客管理	○		年間パスポートを販売することで通年利用の促進に努めている。また、スタンプラリーを一定枚数集めることで景品進呈、売店、レストランではポイントカードを作成し特典を付与することでリピート利用の促進に努めている。				
	・空き室情報をホームページに掲載	○		各講習会、イベント等の予約状況についてはHPにて最新情報を更新して常にご利用者様にて確認できる状況としている。				
	(イ) 施設のPR							
	・施設の写真、利用風景をホームページに掲載	○		HPのトップ画面を改修、園内風景以外のイベント開催風景、ドローン撮影風景等をスクロールさせることで活気ある魅力的な施設のイメージを演出している。				
	・花きに関する近隣市内の教室に対する利用提案や誘致	○		大阪狭山市の自然大学への自然かんさつ会、河内長野社会福祉協議会への「押し花クリアファイルづくり」講習の予定があったが共にコロナ禍にて一旦延期のうえで最終は中止となった。				
	・貸室利用希望者に対する魅力的な展示方法のアドバイス	○		当園資料の提供とあわせて植物管理職員と共同して展示会場への花き展示を実施して文化園らしい会場づくりを行った。				
	(ウ) 屋外スペースの積極的な活用							
	・芝生広場での屋外イベントの場所貸しの継続	○		近隣幼稚園への運動会会場としての貸出し、雑貨村、各種イベントへの貸出しを実施。詳細は別添参照				
	・イベント広場の利用の積極的な誘致の継続	○		春・秋の文化園主催によるフラワーコンサートへの出演者誘致、はなぶんサンクスイルミの誘致を行った。				
	イ 花きに関する相談及び指導	○	○					
	(ア) 相談所の設置							
	・専門職員による相談の実施	○		花き、園芸等の専門的な相談については植物担当職員にて開園時間中は窓口、電話等での相談を随時受け付けて、対応した。				
	・エントランス掲示板やホームページを活用した質問への回答	○		HPへの相談に対しては確認当日での回答を心掛け、内容的に判断が必要なものについては一旦ご連絡の上で再度案内するなど対応を徹底した。				
	(イ) 来園者以外からの相談受付							
	・ホームページやFacebook等での質問対応	○		HP、SNS等での相談に対しては確認当日での回答を心掛け、内容的に判断が必要なものについては一旦ご連絡の上で再度案内するなど対応を徹底した。				
	(ウ) ボランティアに対する教育							
・花きの専門知識を含めた継続的な教育の実施	○		2回/年の職員による養成講義の開催を計画したが、コロナ禍にて1回/年の実施となった。(1月実施)また、各ボランティア団体とは定期的に定例会を開催、定例会にてお客様アンケート等を共有し日々の活動に反映させている。					
(エ) 講師派遣を行う出張花の文化園								
・植栽を搭載した車両による施設訪問やイベント参加	○		「出張花の文化園」として、園外施設に対して花きを利用した出張ワークショップを開催した。りんくうプレミアムアウトレット 2回、イズミヤ河内長野店 4回 実施。					
・寄せ植え教室等の講師派遣の継続と指導の実施	○		「出張花の文化園」として、園外施設に対して花きを利用した出張ワークショップを開催した。りんくうプレミアムアウトレット 2回、イズミヤ河内長野店 4回 実施。					
ウ 花きに関する情報の収集及び提供	○	○						
(ア) インターネット上での情報公開								
・Web植物図鑑の充実	○		入園者が利用するモバイルパソコンはコロナ禍にて感染予防措置として一時的に撤去。公開再開時にむけてデータ内容を整備して内容の充実を図った。					
・園内サインへのQRコード設置によるWeb植物図鑑への誘導	○		バラ園にてQRコードの代わりに各樹名札にバラの情報を掲示、香りを楽しむバラに「香り」マークを付けて入園者にバラの情報をより多く提供した。					
(イ) 情報収集のためのネットワーク形成								
・日本植物園協会への継続加入	○		加入継続。					
(2) 利用者数	○	○	コロナ禍による緊急事態宣言の発出により通常の営業においては約2か月間の休園となり前年より大幅に減少するが、イルミネーションの開催によりプラス5万人の入園者が見込まれトータルでは大幅に増加した。	A	・夕方以降の園利用者数の増加につながるイルミネーションイベントの実施など来園者増に努めたことは評価できる。	A	—	
(3) 利用者満足度調査結果(総合満足度の前回調査との比較)	○	○	春・秋のアンケート調査を通して「大変満足」との評価が前年に比べてのびた。	A	・今後とも「大変満足」の割合の増加とともに、「不満」等の減少にも努められたい。	A	—	
4 施設の維持管理の内容、的確性及び実現の程度	(1) 点検、補修の的確性、迅速性	○	○		A	<p>・園内は常に美観維持に努められ、清掃も行き届いている。</p> <p>・次年度も引き続き、適切な点検及び補修を行うよう努められたい。</p>	A	—
	ア 清掃の徹底	○		当番にて開園前の園内確認を行い園内状況に応じて清掃担当に指示を出すことで無駄なく園内の美観維持に努めている。				
	・チェックリストによる園内全体の美観維持	○		チェックリストに基づき毎日の清掃を実施。イルミネーション開催時は人員を増員して美観の維持に努めた。				
	イ 老朽化を目立たなくする演出	○		エントランスゲートへ木製の板塀を設置し老朽化した風よけパネルを隠すとともに、入園前の装飾花壇の全貌を見えなくすることで入園前の期待感を演出した。				
	・エスバリエ等による緑化の演出	○		バラ園内にオベリスクを新設し立体的な展示となるようにした。(継続実施)				
	(2) 定期点検の実施状況	○	○					
	ア 施設点検の徹底							
	・安全基準に基づいた定期点検、法定点検の実施	○		園長、副園長主導にて定期点検、法定点検について確実に実施を行っている。住友林業緑化社ISO14000取得。				
イ 幅広い利用を促進するサービス								
・施設の日常的な点検と危険箇所の改善	○		当番にて毎日の園内巡回を実施、危険箇所等があれば職員への共有と内容により立入禁止措置等を行い園の安全運営に努めている。					
(3) 職員研修の実施回数、参加状況	○	○	植物管理職員の安全大会出席 1回/年、HP利用研修全職員参加 2回/年、各種資格取得講習会参加。	A		A	—	
5 府施策との整合	(1) 府が実施する事業への支援・協力	○	○		A	<p>・府主催のイベント等に常に協力いただいている。</p>	A	—
	ア 府が主催、後援するイベントへの協力	○		府政学習会の実施、税を考える週間、星空スタンドへの特典商品の提供等に協力。				
	イ 府内花きの生産振興支援	○		装飾花壇を中心に園内展示用の花苗を大阪花き園芸連合会から購入、同連合会主催の品評会への賞状、副賞を提供。				
	ウ 福祉関係事業への協力	○		河内長野市社会福祉協議会と連携、河内長野市内のデイサービス施設、障がい者支援施設との協業(園内管理作業)で利用者への作業場所を提供している。				
	(2) 就職困難者の雇用状況	○	○	継続雇用中。				
	(3) 知的障がい者等の現場就業及び職場定着支援の実施状況	○	○	支援センター等を経由して定期的に職業体験者の受入れを実施。				

評価項目	評価基準	実施予定年度		指定管理者の自己評価	評価 (S~C)	大阪府の評価	評価 (S~C)	評価委員会の指摘・提言
		R3	R4					
II さらなるサービスの向上に関する項目								
1 利用者満足度調査等	(1) 来園者アンケートによる利用者の意見の把握状況	○	○	春・秋にてお客様アンケートを実施。	A	・次年度も引き続きアンケートの実施及びアンケート結果の反映に取り組んでもらいたい。	A	—
	(2) 来園者アンケート結果等の運営への反映状況	○	○	アンケート内容を分析し定例会等にて共有し園の運営に反映している。	A		A	
2 その他創意工夫	(1) 指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫	○	○		B	・次年度も引き続き、NPO等との連携によるサービス向上につながる取組み、創意工夫に努められたい。	A	—
	ア 出張花の文化圏の実施							
	・植栽を搭載した車両による施設訪問やイベント参加	○		「出張花の文化圏」として、園外施設に対して花きを利用した出張ワークショップを開催した。りんくうプレミアムアウトレット 2回、イズミヤ河内長野店 4回 実施。				
	イ 図書館の移設とキッズスペースへの改修							
	・気軽に利用できる図書コーナーの設置	○		センター棟1階のロビーに書庫を移動し誰でも気軽に閲覧できる環境に、新期で植物関連の書籍も追加した。				
	・園内キッズスペースの設置	○		図書室をキッズスペースとして壁面を明るい色に塗装して床にはクッションフローを敷き子どもが安心して遊べるフリースペースを設ける等の改修をした。(実際の運用はコロナ禍にて今期は見送り)				
	ウ 遊歩道整備							
	・NPOの協力による遊歩道の整備	○		遊歩道の一部木製の手すりが腐食している箇所を改修した。				
	・植物保護整備による本格的な自然観察会の開催	○		ふるさと花園において希少植物の育成を行い、季節に合わせて専門職員による自然かんさつ会を開催した。				
	・NPOと連携した情報発信	○		各NPOが出店したイベント等にて文化圏の季刊誌を配布してもらい文化圏を宣伝してもらった。				
・NPOと連携した子ども向け観察会等の実施	○		NPOと協業で大阪府立大学の教授を講師に招き夏休みに自然かんさつ会を実施した。					
・南花台側入口の設置検討	○		設置可能かの検討を実施。業者への見積依頼等。					
III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項								
1 収支計画の内容、的確性及び実現の程度	(1) 事業収支の計画に対する妥当性	○		当初の収支計画からは大幅なマイナスとなる。理由としては文化圏の一番のハイシーズンである4月後半からコロナ禍による緊急事態宣言の発出を受けて約2か月の休園要請にて入園料をはじめ各施設の収入が大幅に減少したことによる。一方で自主事業として開催したイルミネーションにおいては予定通りの事業計画内容となった。収支については別添資料参照	B	・新型コロナウイルス感染症の影響による2か月の休園による減収があった中、支出の減に努め、収支の悪化を抑えている。次年度は、新規来園者の獲得など収支の改善に努められたい。	B	・コロナ禍においても、様々な取組みを実施し、収支の悪化を抑えたことは評価できる。 ・今後も事業収支がマイナスにならないよう工夫して運営に努められたい。
	2 安定的な運営が可能となる人的能力	(1) 事業実施に必要な人材・人員数の確保・配置	○	適切な人材と人員配置にて運営できている。詳細は別添参照	A			
	(2) 従事者への管理監督体制、責任体制	○		園長を中心とした管理監督体制にて、園長不在時は副園長が対応。経理、勤怠を管理するマネジメントチーム、イベント、広報、HP、SNSを担当するプランニングチーム、植物管理、施設管理のガーデンチームの3チーム体制で運営。	A	A	—	
	(3) 従事者への研修実施の状況	○		住友林業緑化社実施の安全大会への出席、ISO研修等の住友林業グループの教育の場に嘱託職員も参加。	A	A	—	
3 安定的な運営が可能となる財政的基盤	(1) 共同企業体を構成する法人の経営状況	○		共同企業体のいずれの法人においても安定した経営を継続。	A	A	—	

〔新型コロナウイルスに関連する取組みにおける大阪府の評価について〕

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点によるイベントの中止等については、やむを得ないと考え、評価を行わないものとする。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初の計画を変更し、工夫を凝らして実施した項目については評価する。

項目ごとの評価は、次の4段階評価とする

S: 計画を上回る優良な実施状況
A: 計画どおりの良好な実施状況
B: 計画どおりでないが、ほぼ良好な実施状況
C: 改善を要する実施状況

年度評価は、次の4段階評価とする

S: 項目ごとの評価のうちSが5割以上で、B・Cがない
A: 項目ごとの評価のうちBが2割未満で、Cがない
B: S・A・C以外
C: 項目ごとの評価のうちCが2割以上。又は、Cが2割未満であっても、文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合

総合評価及び最終評価は、次の4段階評価とする

I: 評価対象となる年度の年度評価のうちSが5割以上で、B・Cがない
II: 評価対象となる年度の年度評価のうちBが3割未満で、Cがない
III: I・II・IV以外
IV: 評価対象となる年度の年度評価のうちCが5割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組み状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く

※総合評価がIVとなった場合には、次回の指定管理者選定時に減点措置を講じること

令和3年度評価 **A**

総合評価 **II**